

# まほろばだより

— Center for Diversity and Inclusion —

第38号

## Contents

- Report 1 第10回女性研究者学術研究奨励賞授賞式
- Report 2 本学教員・研究者および附属病院勤務医師の女性割合
- Report 3 医看合同授業・次世代医療人育成論「奈良県の男女共同参画」
- Information 1 令和3年度「女性医療職等の働き方支援事業」実施団体選定
- Information 2 第11回女性研究者学術研究奨励賞募集

Report  
1

## 第10回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を開催しました



8月24日、厳樞会館大ホールにて第10回女性研究者学術研究奨励賞授賞式を執り行いました。3月1日に選考委員会が開催され、皮膚科学助教の西村友紀先生の受賞が決定しました。授賞式では、細井学長から選考の講評・賞状等の授与が行われ、西村友紀先生が「①再発性帯状疱疹の臨床的、免疫学的特徴の研究②薬剤性過敏症候群における重症度予測マーカーとしての血清TARC値の有用性の研究」について講演されました。本賞は創設から10年を経て多くの女性研究者からご応募いただける賞となり、選考も年々難しくなっています。そのような中、**皮膚科学教室**は西村先生を含めて**2名の受賞者を輩出**しております。長年にわたり女性研究者・医師が活躍できる職場環境を整え、研究の指導を続けてこられた皮膚科学教室の浅田秀夫教授に、心から敬意を表します。

### 【西村友紀先生からのコメント】

この度は、第10回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞させて頂き、大変光栄に存じます。女性研究者・医師支援センターの先生方をはじめ関係の諸先生方、また日頃よりご指導頂いている浅田秀夫教授、皮膚科学教室の先生方に深く感謝申し上げます。

これまでヘルペスウイルス関連皮膚疾患の帯状疱疹と薬剤性過敏症候群についての研究を行ってまいりましたが、成果を臨床に還元できるよう、今回の受賞を励みに臨床、研究ともに日々精進して参りたいと思います。



▲ 皮膚科学教室 浅田秀夫教授と一緒に

Information

1

## 厚生労働省 令和3年度「女性医療職等の働き方支援事業」に採択されました

このたび、厚生労働省が公募する「女性医療職等の働き方支援事業」の実施団体に、本学が選定されました。

今回採択された本学の事業では、女性研究者・医師支援センターが主体となり、①ライフイベント（不妊治療、妊娠・出産、育児、介護）中の女性医員への研究支援員の配置、②女性医師のキャリア向上に影響を及ぼす職場環境の調査を実施します。

支援対象となる女性医員の方々や調査を依頼する臨床系教室には、女性研究者・医師支援センターから改めてご連絡致します。どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

# 本学教員・研究者および附属病院勤務医師の女性割合 (令和3年5月1日現在)

女性研究者・医師支援センターは、平成23年度から3年間は文部科学省科学技術人材育成費補助金、平成26年度以降は法人予算を用いて女性教員増加に向けた様々な取組を行なっています。当センター設立後、本学の女性教員・研究者の割合は着実に増加し、各々20%、25%を超えています(図1)。しかし、本年度の医学科女性教員数とその割合は、直近2年間と比べて低下しており、第3期中期目標・中期計画(令和元年度～令和6年度)の目標値である18.5%を僅かに超える18.9%に後退しています(図2)。第2期中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)では、本学で最も女性割合が低い臨床系女性教員を増加するために数値目標を設定し、最終年度には目標値を超える増加を達成しましたが、本年度は直近2年間と比べると減少しています(図3)。また、臨床系女性教員の採用割合が令和元年度の35.1%から令和2年度は11.8%に低下しており、平成26年度以降で過去最低となりました(図4)。臨床系女性教員は、学生のみならず臨床研修医や医員等若手医師にとって身近なロールモデルであり、本学の男女共同参画推進に重要な役割を担っています。教員候補となる診療助教に占める女性の割合は現在30%を超えており(図5)、女性診療助教から教員への積極的な登用を今後も働きかけていきたいと思ひます。さらなる臨床系女性教員の増加には、候補となる若手女性医師の育成が不可欠です。常勤(本学では週5日勤務)の女性医師を積極的に採用し、臨床・研究・教育の各分野でキャリアを積めるように職場環境を整備することが重要です。第3期中期目標・中期計画では、令和6年度に本学の常勤女性医師数を140人とする目標を掲げており、令和3年度は136人に増加しています(図6)。女性研究者・医師支援センターでは、本年度から研究支援員配置制度等、研究支援の対象を常勤の病院助教に拡大し、若手女性医師の研究環境の整備に努めています。

図1 医学部女性教員・女性研究者割合の推移

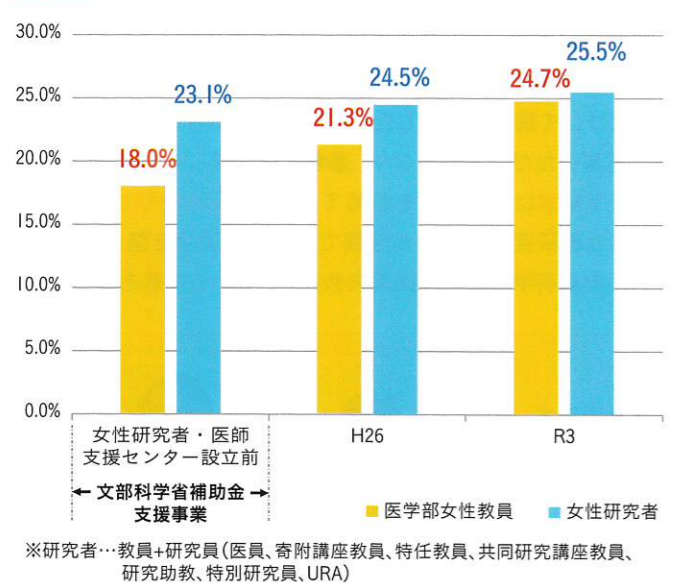


図2 医学科女性教員数・割合の推移

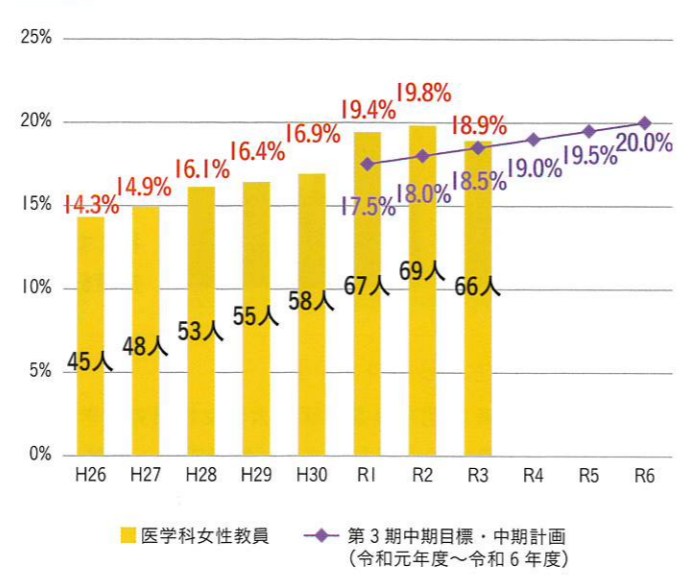


図3 臨床系女性教員数の推移

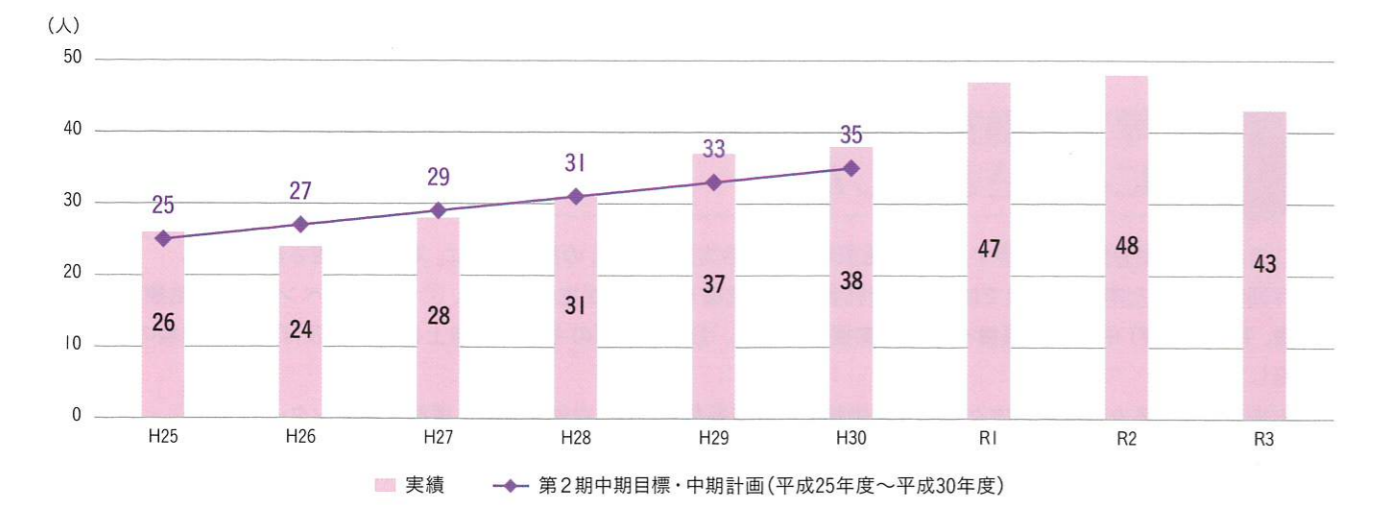


図4 女性教員採用割合

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
医学部女性教員	18.2%	26.7%	30.2%	23.1%	31.4%	33.3%	15.4%
医学科女性教員	12.8%	23.3%	22.9%	22.2%	22.6%	28.9%	13.2%
臨床系女性教員	16.1%	21.6%	22.7%	20.0%	24.0%	35.1%	11.8%

注) 女性教員採用割合(%) =  $\frac{\text{女性教員採用数}}{\text{男女教員採用総数}} \times 100$



図5 附属病院勤務医師の職位別男女割合

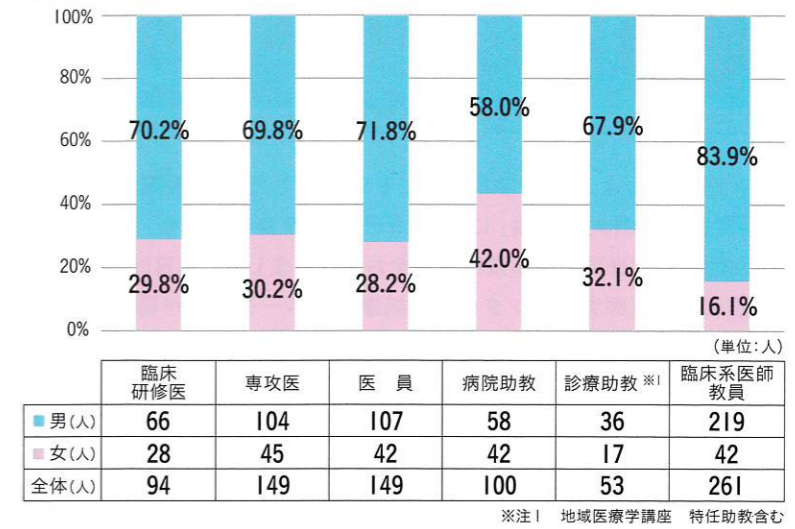
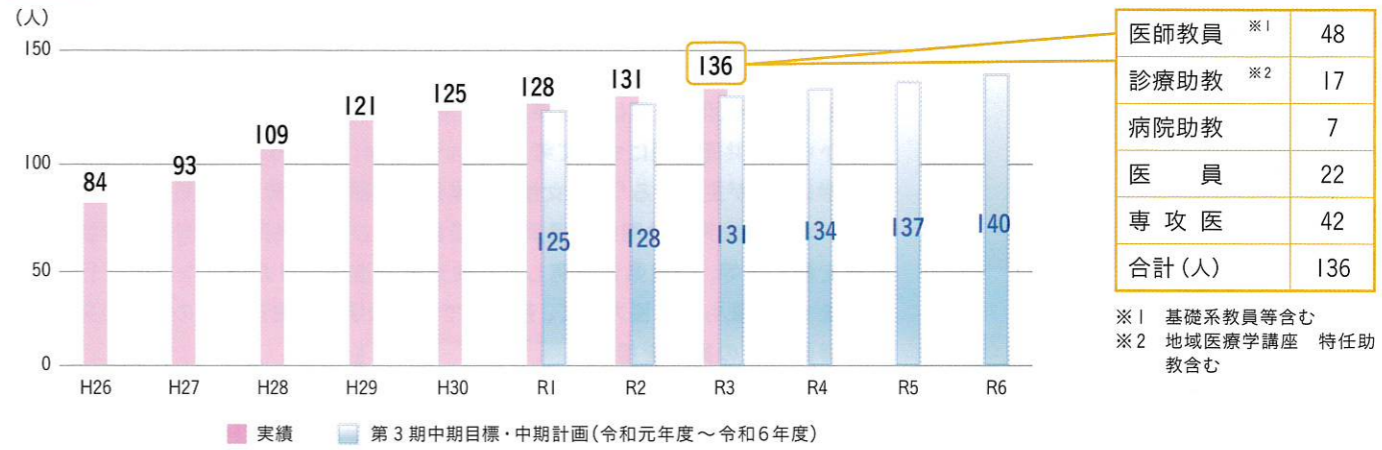


図6 常勤女性医師数(週5日勤務)の推移 ※臨床研修医を除く



令和3年5月1日現在、臨床系女性教員43人の所属教室は図7の通りです。本学で最も多く臨床系女性教員が在籍するのは、産婦人科学、小児科学、病理診断学の3教室で、これら3教室では5人の女性教員が活躍されています。臨床医学教室の中で講師以上の上位職に女性が在籍するのは、全26教室中8教室(眼科学、消化器内科学、小児科学、脳神経内科学、皮膚科学、病理診断学、放射線腫瘍医学、放射線診断・IVR学)あり、このうち7教室では、複数の女性教員が在籍しています。上位職に女性が在籍する教室では、後進の女性医師の育成も進んでいると思われます。

一方、女性教員がゼロである臨床医学教室は、令和元年度の9教室から減少はしていますが、昨年度の6教室からは1教室増加し7教室となりました。これら7教室のうち、耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室と腎臓内科学教室では、女性の教員は在籍しないものの診療助教や特任助教が在籍しています。その他の5教室(救急医学、胸部・心臓血管外科学、口腔外科学、脳神経外科学、泌尿器科学)では、女性の教員および診療助教等もゼロとなっています。今後、女性教員ゼロの7教室も含めて、全臨床医学教室に一人でも多くの女性教員が就任することを期待しています。当センターでは、女性研究者・医師への研究支援を中心に、ワークライフバランス推進やハラスメントの防止、医学科学生へのキャリア教育などを通して、今後も女性の活躍を応援していきたいと思ひます。

図7 臨床系女性教員の所属教室(令和3年5月1日現在)

所属教室	人数(人)	所属教室	人数(人)
産婦人科学	5	循環器内科学	1
小児科学	5	消化器内科学	1
病理診断学	5	整形外科	1
眼科学	3	総合医療学	1
皮膚科学	3	糖尿病・内分泌内科学	1
放射線診断・IVR学	3	その他	1
消化器・総合外科学	2	救急医学	0
精神医学	2	胸部・心臓血管外科学	0
脳神経内科学	2	口腔外科学	0
放射線腫瘍医学	2	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	0
麻酔科学	2	腎臓内科学	0
感染症センター	1	脳神経外科学	0
がんゲノム・腫瘍内科学	1	泌尿器科学	0
呼吸器内科学	1	臨床医学系女性教員	43
		合計	43

■ 講師以上の上位職に女性が在籍する教室



## 「奈良県の男女共同参画」 講師：奈良県こども・女性局女性活躍推進課 西橋 奈穂 課長

医学科および看護学科1年生を対象とした必修授業である「次世代医療人育成論」に、9月6日(月)奈良県こども・女性局女性活躍推進課の西橋奈穂課長をお招きしました。当日は、女性研究者・医師支援センターの須崎康恵マネージャーが司会を務め、西橋奈穂課長から奈良県の男女共同参画の現状と取組について、さまざまなデータをもとにご講演いただきました。女性の就業率(20～64歳)が、奈良県は62.8%(全国69.2%)と全国最下位であり、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」といった固定的性別役割分担意識が全国と比べて強いこともご紹介いただきました。県では、これら固定観念の払拭を促して男女とも



▲ 授業の様子



▲ 講師：西橋奈穂課長



▲ 司会：須崎康恵マネージャー

に能力を発揮し、それ

ぞれが考える幸せを実現できるように「男女でつくる幸せあふれる奈良県計画」を策定したことについても、概要版を配布してわかりやすくご説明くださいました。今回の授業は学生参加型の形式も取り入れられ、学生達が身近な話題から男女共同参画について考える良いきっかけになったと思います。

本学は、県が主催する「なら女性活躍推進倶楽部」に登録し、須崎康恵マネージャーが奈良県男女共同参画県民会議委員および奈良県男女共同参画審議会委員を務める等、奈良県と連携して女性活躍推進に向けた様々な活動を行っています。今後も県と協力して、奈良県で学ぶ医学科と看護学科の学生が男女共同参画社会の実現を担う良き医療人に成長できるよう、男女共同参画に関する教育に取り組んでいきたいと思ひます。



QRコードからも  
アクセス可能



<http://www.pref.nara.jp/secure/245139/danjo-plan-summary.pdf>

## 第11回女性研究者学術研究奨励賞募集



本学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者に対して、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

次回、第11回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全職員へ一斉メールで通知します。また、各教室の所属長には紙面でもご案内します。過去の受賞者一覧と研究テーマは当センターHPに掲載しています。数多くの女性研究者からのご応募をお待ちしています。

当センターHP▶



### 【編集後記】

賛否両論のある中開催された東京五輪でしたが、全力で取り組む選手の姿に多くの方が感銘を受けたと思います。ジェンダー平等を重視する東京五輪では、男女混合種目が18種目に増加しました。新たに加わった柔道混合団体で金メダルに輝いたフランスの王者リネール選手が「女子選手の力がなければ、勝利はなかった」と語り、男女で喜びを分かち合う姿が印象的でした。長年、男性優位な状況が続くスポーツ界も新たな時代を歩んでいます。本学においても、これまでに以上に強く優しい大学を目指して男女共同参画を推進していきたいと思ひます。

### 【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階  
TEL:0744-23-8011(直通)  
0744-22-3051(代) 内線:2525  
E-mail:jshien@naramed-u.ac.jp

